

特集

# 大学院科目を学部で先取り、修士取得まで短縮化！

全国的に大学院進学者は減少傾向にあるが、学生を大学院に誘導する仕組みとして、学部・修士5年一貫教育（または4年一貫教育）を導入する大学が増えている。5年（4年）で学士・修士を取る、その仕組みはどうなっているのか？大学の取り組みを探った。

## 一橋大の5年一貫教育

一橋大学の商学研究科・商学部と経済学研究科・経済学部では、学部・修士の5年一貫教育を実施している。

商学研究科・商学部では、2000年度から5年一貫教育の「経営学修士（MBA）コース」を開設し、2004年度には5年一貫教育の「研究者養成コース」を設けた。その後、経済学研究科・経済学部でも、「5年一貫専修コース」「5年一貫研究者養成コース」を開設した。

今回は、5年一貫教育をいち早く導入した商学研究科・商学部取材した。同大学院商学研究科長・商学部長の蜂谷豊彦教授は、同プログラム導入の背景を次のように説明する。

「もともと大学院には、研究者養成とは別に、修士専修コースがあったのですが、それを2000年に改組し、MBAコースを設置しました。そのときに同時に、5年一貫プログラムを導入しました。背景には、優秀な学生をMBAコースに誘導し

ていこうという意図があったと思います。

優秀な学生には、学部教育で終わるのではなく、もっと実践的な教育によって、さらに高度な知識を身につけてもらいたい。一段高いレベルに育成してから社会に送り出そうという狙いがあったと認識しています」

MBAコースでは、社会のさまざまな分野で多彩な実務経験をもつ社会人学生が多く学んでいる。そうした社会人学生といっしょに学べることは、MBAコースの大きな魅力となっている。

一方、将来の研究者をめざす研究者養成コースは、学部・修士の5年一貫により、最短8年で博士号を取得できる。MBAコースから研究者養成コースへの進学も認められており、毎年数名が進学している。

## 優秀な学生を選抜

学士と修士を5年で取得する仕組みは、図表1の通り。大学院教育を学部4年次から前倒して実施し、修士課程は1

出願資格は、「3年次夏学期までに履修した商学専門科目のAの数が同一学年のなかで上位3割以内」である。さらに、研究者養成コースについては、「自らが専門とする領域の標準科目（4単位科目1科目）の成績がAであること」「TOEFLにおいて、iBTで90以上」の条件が加わる。ゼミの指導教員による推薦状も必要。そして、3年次の1月末〜2月初旬頃に、3年次前半までの成績と面接をもとに選考が行われる。

出願資格が厳しいため、志願者数、合格者数ともに多くはない。定員は、MBAコースが10名程度、研究者養成コースが5名程度だが、定員に達した年は少ない（図表2）。

ただ、各学年で本当に優秀な学生が選抜されているため、プログラムの途中でドロップアウトする学生はいないという。「普通の学生がやろうとしたら大変なプログラムだと思いません。それを大変と感じない、勉学の習慣が染み付いた学生たちが学んでいる」と蜂谷教授は説

明する。

## 実践的な応用力を磨く

では、学部の教育と比べ、修士の教育では、どのような能力が身に付くのだろうか？ 蜂谷教授は次のように説明する。

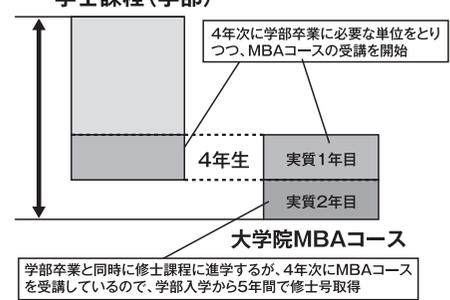
「学部レベルでは、身につけた知識を実践の場で使う応用力を養うのは難しいと思います。これに対し修士では、実践的な応用力が磨かれます。例えばMBAコースでは、企業とのインターンなどを通じて、企業が現実

に直面している課題を取り上げ、その解決策を見つけ、発表するということになります。知識が日常的に行っています。知識がより高度になるのは当然ですが、その知識を実践的に使いこなせるようになります。この点は学部と修士では違うと思います」

一方、研究者養成コースでは、高度な研究論文を作成・発表する過程で研究者としての素養が磨かれていく。

「学部の卒論は、ひとつでもいいから自分なりのアイデアを出し、それをベースに問題提起、

図表1 一橋大学MBA5年一貫プログラムの仕組み  
学士課程（学部）



図表2 一橋大学商学研究科 5年一貫プログラム合格者数

年度	経営学修士コース (定員 10人)	研究者養成コース (定員 5人)
2000年度	5	—
2001年度	5	—
2002年度	11	—
2003年度	9	—
2004年度	5	4
2005年度	5	2
2006年度	5	2
2007年度	6	2
2008年度	10	2
2009年度	8	0
2010年度	13	0
2011年度	5	2
2012年度	8	0
2013年度	5	4
2014年度	9	0

仮説、検証、結論というプロセスができていけばいいとされます。ところが研究論文では、検証過程が適切に行われていることはもちろん、結論に新規性があるだけでなく、政策的インプットが期待されます。研究論文は査読という専門家による評価や検証にもさらされます。そうした経験をj経て研究者として育つていくこととなります」（蜂谷教授）

## MBAとついで金融界の常識

MBAコースでは、経営学修士（MBA）を取得し、就職を目指す。ただ、学部卒でも同様

に就職ができるのだから、MBA



一橋大学大学院商学研究科長・商学部長  
蜂谷豊彦 教授

年で修了。5年間で学士と修士の両方取得する。

「優秀な学生は、3年次までに学部の卒業に必要な単位はほとんど取得してしまい、4年次は卒論のみという状況になります。この1年間を遊ばせておくのではなく、修士1年目の教育に当てるといって考え方を。学部4年次に卒論を仕上げ、修士取得後、もう1年勉強することになり」（蜂谷教授）

時間的余裕のある学部4年次をうまく活用した仕組みだ。しかし、このプログラムに入ると、卒論を書きながら修士の授業の課題にも取り組まないといけないので、実際はかなりハードな学習が求められる。それだけに、優秀な学生を厳しい基準で選抜している。

Aは必要ないと考える学生もいるかもしれない。しかし、蜂谷教授はこの点には注意を促す。「金融界では、修士・博士が必要ないという考え方は通用しません。例えば、投資家に資金調達を依頼するためアメリカに行くとなると、アメリカの投資家は博士号を持っているのが当たり前です。そのような相手と対等に話し合うためには、学歴がものをいいます。今、グローバルに活躍しようと思ったら、MBAや博士号が不可欠になってきています」

こうした時代の流れから、MBAの価値を認識し、大学院で学び直す社会人は多い。各大学



慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス。

**専門の枠を越えた学び**  
 では、SFCで修士課程に進むことの魅力はどこにあるのか？  
**應義塾広報室**  
 3年次までに学部卒業要件と3年卒業のための要件の両方を満たすことで、学部を卒業。その後、修士課程に進む。修士論文の作成を行い、1年で修士学位の取得を目指す。  
 本プログラムの履修を途中でやめる場合は、通常の学部4年卒業の流れに戻る。

政策・メディア研究科は、SFCの大学院だ。同研究科の最大の特徴は、最先端の「社会イノベーション」と「技術イノベーション」を創出し得る学問を融合できる点で、さまざまな専門領域の垣根を越えて、実社会に起こりうる諸問題を解決する仕組みや方法を創造する人材の育成を目標としている。  
 「一例として、学部生には学内に研究拠点となる場所は与えられていませんが、政策・メディア研究科に入学すると、大学院棟にスペースが割り当てられます。このスペースは、専門領域の垣根を乗り越えることの一助となるよう、領域別の座席指定ではなく大学院生が自由に交流できるような配置にしています。学部で学んできたことをベースに、専門領域の異なる仲間との交流を通じて、それぞれの研究を進めていける環境が整っていること、これが政策・メディア研究科の最大の魅力です。そこで生まれた研究の成果が、『学際・複合・新領域』の創出という形で現れてきていま

図表4 学部・修士一貫プログラムの導入例  
 博士課程に進学する者もいるが、多くは就職する。就職のためのキャリアパスを支援する仕組みとして、大学院生向けのプログラムも多数提供されている（文部科学省 博士課程教育リーディングプログラム「超成熟社会発展のサイエンス」「グローバル環境システムリーダープログラム」など）。こうしたプログラムの積み重ねもあり、「企

大学・学部・研究科	プログラム概要
東京工業大学「学修・修博一貫教育」	2016年度に教育改革を実施。学修・修博一貫教育を導入する。成績優秀者は学部学生のうちから修士課程の学習をしやすくなり、早期卒業・修了の可能性が広がる。
立教大学経営学部・経営学研究所「5年一貫プログラム」	学部4年次から大学院経営学研究所前期課程の講義を履修し、学部卒業後、引き続き大学院前期課程へ進学する。募集人員は「留学コース」「通常コース」あわせて10名。
早稲田大学商学部・商学研究科「5年一貫修了制度」	大学院の2015年度推薦入学者から「早期修了制度」を適用。一定の条件をクリアした希望者について、1年間の在学中に修士学位が得られるようになる。
神戸大学経済学部・経済学研究所「5年一貫経済学国際教育プログラム」	1年次後期に20名程度を定員として募集。標準パターンでは、3年次後期に海外協定校への留学。学部は4年次前期をもって早期卒業し、大学院へ推薦入試によって秋入学する。
九州大学経済学部・学府「学部・学府一貫教育プログラム」	学部3年次12月に約15名を選抜。学部4年次から大学院科目を履修し、修士課程特別選抜を受験することができる。成績優秀者は修士課程を1年で修了する。

す（慶應義塾広報室）  
 修士を修了した学生は、後期博士課程に進学する者もいるが、多くは就職する。就職のためのキャリアパスを支援する仕組みとして、大学院生向けのプログラムも多数提供されている（文部科学省 博士課程教育リーディングプログラム「超成熟社会発展のサイエンス」「グローバル環境システムリーダープログラム」など）。こうしたプログラムの積み重ねもあり、「企

**SFCは4年一貫教育**  
 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科では、2015年度から「学部・大学院修士4年

一貫教育プログラム」を開始する。通常の学生が4年で修士を取得する間に、本プログラムでは修士と修士の取得を目指している。  
 SFCにはもともと、大学院修士課程を最短1年で修了できる制度があり、また2007年の学則改正で、学部を3・5年で早期卒業する制度も導入された。結果的に「学部3・5年+修士1・5年」の合計5年で学部・修士を修了することが可能となった。しかし、一体となった教育プログラムとしては確立されておらず、実績は出ていなかったという。  
 そんななか、学部3年次終了時点で卒業に必要な単位のほとんどを取得している熱心な学生が毎年各学部10名前後いることが判明。そこで、4年間で修士と修士の学位を取得できるプログラムの創設にいたった。  
 このプログラムの最大のメリットは、大幅な学修期間の短縮と、それによる授業料の圧縮である。授業料は、学部4年間で納入する金額とほぼ同じで済

**2年次から先取り履修**  
 修士と修士の2つの学位取得を目的としているので、そのリスクは解消されている。  
 また、従来の「学部3・5年+修士1・5年」では、飛び入学制度を利用する場合は修士を取得できず、大学院を修了できない場合のリスクがあった。しかし今回の制度では、あくまで修士と修士の2つの学位取得を目的としているので、そのリスクは解消されている。  
 また、従来の「学部3・5年+修士1・5年」では、飛び入学制度を利用する場合は修士を取得できず、大学院を修了できない場合のリスクがあった。しかし今回の制度では、あくまで修士と修士の2つの学位取得を目的としているので、そのリスクは解消されている。

院のMBAコースは、そうした社会人の受け皿となっている。ただ、学生としては、無理しなくてもMBAコースに進む必要はない、と蜂谷教授は話す。  
 「学部卒でそこそこの能力でMBAコースに入ってしまうと、授業についていくのは厳しいと思います。企業で選抜され派遣されてきた優秀な社会人と対等に議論していかないといけませんから、それなりの能力を備えていないといけません。ですから、一度社会で経験を積んでから、キャリアアップの手段としてMBAコースに来てもらうという考え方もいいと思います」  
 MBAの価値を認識しながら、自らの能力に合わせて学修の機会を見極めていけばいい、ということだ。

「大学院進学を阻む要因といえる時間的・経済的な壁を取り払った形だ。これによって、修士取得に意欲のある学生はチャレンジしやすくなる。優秀な学生が大学院に進むことで、大学院組織の活性化も期待されるのである。」  
 また、従来の「学部3・5年+修士1・5年」では、飛び入学制度を利用する場合は修士を取得できず、大学院を修了できない場合のリスクがあった。しかし今回の制度では、あくまで修士と修士の2つの学位取得を目的としているので、そのリスクは解消されている。

**図表3 SFC 学部・大学院4年一貫教育プログラム**

高度プロフェッショナルとしての就職や後期博士課程進学

学位取得（学士+修士）	
大学院	1年 修士論文提出・最終審査
学部	3年 <ul style="list-style-type: none"> <li>4年一貫教育プログラム必要要件充足</li> <li>卒業プロジェクト（卒業論文）提出</li> <li>所定単位取得</li> </ul>
	2年 プログラム参加・指導教員決定
1年	
4年一貫教育プログラム（学部3年+修士1年）	

プログラムの流れは図表3の通り。参加意欲のある学生の選抜は、学部1年終了時に行われる。入学試験は行わず、学生全員にプログラム参加の道を等しく開いている（選抜方法の詳細は調整中、定員は設けられない）。プログラムの参加が決まると、学生には担当教員がつき、卒業プロジェクト（卒業論文）、修士論文執筆までを一貫して指導する。そして、大学院設置科目の先取りがはじまる。  
 「学部の2年次以降に、自由科目（学部の卒業単位には含まれない）として大学院科目の先取り履修が可能となります。大学院科目は、大学院進学後に取得単位として認められます」（慶